

幼稚園における外国人保護者が必要な行動と日本語： 外国人保護者への日本語支援と自律のために

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-11-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 樋口, 尊子 メールアドレス: 所属:
URL	https://osaka-shoin.repo.nii.ac.jp/records/4603

幼稚園における外国人保護者が必要な行動と日本語

—外国人保護者への日本語支援と自律のために—

樋 口 尊 子

要旨

日本で暮らす外国人に対する日本語支援の対象に、子育て中の外国人保護者がいる。本稿では、子どもを幼稚園に通わせる外国人保護者が、子どもが持ち帰る文書を理解し行動を起こせるようになることを目的としている。幼稚園で配布された1年分の文書からその外国人保護者が必要となる日本語と行動について分析を行った。その結果、外国人保護者が必要とされる行動は大きく6種類に分類できた。また、文末表現に注目すると「てください」と「お願いします」が大半を占めていることもわかった。さらに容易に行動を起こせるように文末表現を「てください」に統一することも可能であった。最後にその分析結果をもとに実際に配布されている文書から必要な行動を容易に理解し行動を起こすことができるアクションシート^{※1}の作成を試みた。その際、1つの行動を起こすのに複数の注意点

とその理由も記されている場合があり、アクションシート^{※1}の構成は、①アクション（とるべき行動）、②注意点、③目的・理由（支援者の言いたいこと）になった。

キーワード

幼稚園の配布文書 外国人保護者への日本語支援 日本での子育て やさしい日本語

はじめに

著者が活動を続けている地域日本語教室^{※1}では国際結婚だけではなく、家族を日本に呼び寄せ、子どもを日本の幼稚園（以降「園」）、学校に通わせるケースが増加している。しかしながら日本での子育

てに不安や不満を持ち、帰国するケースも少なくない。これは日本での子育てが外国人にとって容易ではないことを示している。樋口(2014)^{※2}では、幼稚園は子育てをする中で初めて日本の文化や教育に接することが多いため苦労が多く、特に園から持ち帰る文書については大変であるということがわかった。外国人保護者が母語では行えることが日本語の能力が低いためできない言語の壁があり、自律したいという思いもあった。そこで、「①ルビをふる、②見出しを付ける、③行動を起こさないといけないことを強調する」の3点が有効であると提案した。しかしながらその3点をだけですべてが解決するわけではない。まだまだ外国人保護者の負担は大きい。そこで、本研究は③「行動を起こさないといけないこと」に注目し、外国人保護者が文書からすべき行動を行えるための支援を目的とすることにした。

1. 先行研究

幼稚園の文書に関わらず日本で暮らす外国人への日本語支援として「やさしい日本語」が注目されている。「やさしい日本語」は現在、災害時における情報伝達や公文書の書き換え、看護師国家試験対策などにおいて活用されている。庵(2009)は「多言語化していない現在の日本において外国人が不利益を被る度合いを減らすためのものである」と述べている。「やさしい日本語」作成のためのガイドライン(弘前大学人文学部社会言語学研究室2010)に

は、「やさしい日本語」にするための以下のルールが記されている。

- (1) 難しいことばを避け、簡単な語彙を使ってください
- (2) 1文を短くして文の構造を簡単にしてください
- (3) 外来語を使用するときは気をつけてください
- (4) 擬態語は、日本語話者以外には伝わりにくいので使用を避けてください

- (5) 動詞を名詞化したものはわかりにくいので、できるだけ動詞文にしてください

- (6) あいまいな表現は、避けてください

- (7) 二重否定の表現は避けてください

- (8) 文末表現はなるべく統一するようにしてください

これらに加え、書きことばの注意点として、ローマ字は使わないことや使用する漢字、漢字の使用量に注意することなどが記されている。

この「やさしい日本語」の考えをもとに大阪ボランティア協会では外国人保護者と子育て支援に関わる人とのより良いコミュニケーションのために「日本語でつたえるコツ」という多文化子育て支援ガイドブックを発行している。このガイドブックには支援者側が「やさしい日本語」を使えるようになるための練習も準備されており園からの配布物についてもその例が示されている。

もちろん、それぞれの園の支援者が「やさしい日本語」を理解し会話や文章を書けるようになるのが望ましいが、今回の調査協力を得た園をはじめ外国人保護者が少ない園では、必要性を感じていて

も「やさしい日本語」を使用しようとする意識を持つことまでは難しいと考えらえる。また実際に園からの配布物がすべて「やさしい日本語」になったとしても母語ではない数多くの文書に日を通してはやはり外国人保護者にとって負担であることには変わらない。そこで本研究では、「やさしい日本語」を用い、外国人保護者とその子どもにとって必要性の高い文書についてさらに容易に理解できる方法を検討することにした。

2. 研究の概要と目的

本研究では2つの方法で分析を行った。1つは、園から持ち帰る文書の中からアクションが必要なものを集め分類しその傾向を見つける。そこから外国人保護者がアクションを起こすために手がかりとなる日本語についてまとめる。もう1つは、そのアクションの内容分析からアクションを起こすのに必要な最低限の情報をまとめる。その際、使用する言語は前述した「やさしい日本語」の考えをもとに選出した。これは外国人保護者の負担を最小限にするとともに支援者側への提案ともなると考える。

分析を行った文書は、東大阪地域の幼稚園にご協力いただき、1つの園で配布されている文書1年分を使用した。

3. 幼稚園で配布される文書について

調査協力を得た園の1年分の文書をもとに以下の分析を行った。1年間で配布された文書は約200枚で、その7割が園（支援者）の作成したもの、あとの3割がその他団体や行政などからであった。園から配布される文書とは、ここでは紙ベースの物を言う。他にも携帯メールの利用もあるが少数である。また、子どもが持ち帰るものの他に保護者自身が行事に参加した際、持ち帰るものもある。これも分析対象とした。

園から配布される文書のサイズはA3～B6まであり1枚当たりの内容量はさまざまである。また、複数枚のプリントをホチキス止めしてあるものや冊子になった状態のものもあるため、枚数はおおよその数で表記する。

3-1. 配布物の種類

幼稚園から配布される文書を大きく分けると①お知らせ、②お便り、③その他の3つに分類できる。保護者に準備や行動を知らせる「お知らせ」と園での様子を伝える「お便り」に加え、園以外の団体、行政からの案内や提出書類もあり、まとめると次のようになる。

配布物の種類（表1）

Aお知らせ	①行事（への参加）のお知らせ ②持ち物について ③その他
Bお便り	①園での子どもの様子を伝えるもの ②保健だよりやカウンセラー通信など保護者に向けて伝えるもの
Cその他	①こんだて表や運動会のプログラム ②他団体による広報など ③スポーツクラブや絵本購入の案内など ④行政からの手続きを要する文書

3—2. 配布物の発行元と内容

配布物の発行元と内容（表2）

発行元	主な内容
幼稚園	①行事や持ち物などのお知らせ（表1のA） ②園生活に関するお便り（表1のB） ③その他（表1のC①）
幼稚園以外 （表1のC②～④）	行政 幼稚園に関する団体 近隣のスポーツクラブ 書店などの商店 ④提出書類（補助金の申請など） ⑤PTAにより ⑥広告 ⑦絵本の紹介・販売（申込）

アクションが必要なのは表1のAとC④で、表1のA「お知らせ」

の約90%にあたる文書が次に述べるアクションを起こさなければならない文書であった。ここで約90%としたのは園から発行された文書には1枚のプリントの中に複数の情報があることが多いため、枚数とアクション数が異なる。そのため、はっきりした割合を表すことができないが、ここでは枚数からの割合とする。アクションを必要としない10%には「バス運転手交代のお知らせ」「制服値上げのお知らせ」「先生紹介」などがあつた。

4. 保護者がアクションを起こさなければならない文書

はじめに述べたように本研究では、園から子どもが持ち帰る文書から実際に保護者が行わなければならないことをできるようになるということが目的であるため、前項でまとめた配布物の中から実際に「文書を読んで行動を起こさなければならないこと」（以後「アクション」）の分類を行った。分類に先立って、アクションの必要性について以下の3つがあることを確認しておく。

アクションの種類（必要性）

①必ず行わなければならない	（例）書類の提出・持ち物の準備など
②任意で行う	（例）行事への参加・物の購入など
③内容を確認する（行動は必要なし）	（例）価格の変更・先生紹介など

②「任意で行う」は、主に表1のC②③、③「内容を確認する」

は主に表1のBにあたる。これは任意であるため今回のアクションの対象としない。

今回の分析では必要性が最も高い①「必ず行わなければならない」ことについて分析を行うことにした。

5. アクションの分析

4. で①「必ず行わなければならない」とした文書から実際に行動が必要な内容の分類を試みたところ大きく以下の6つのアクションに分類できた。

1. 提出する (記入したものを提出する)
 2. 参加する (普段の園生活と異なる行事)
 3. 準備する
 4. 他人への働きかけ
 5. 注意する
 6. その他
- それぞれの数は、1. 提出する(18)、2. 参加する(21)、3. 準備する(60)、4. 他人への働きかけ(3)、5. 注意する(33)、6. その他(2)であった。

5-1. それぞれのアクションの内容

上記の1〜6. それぞれのアクションの詳細と例、そのアクション数についてまとめた。アクション数は1年間で137であった。

1. 提出する

①文(長文)を書いて提出する	3	(例) 行事に対する感想
②選択や簡単な内容を記入して提出する	8	(例) 集合場所の選択・参加者の氏名の記入
③その他	7	(例) 入園・進級時の子どもの情報

①の「文を書いて提出する」は最も負担が大きい作業だと考えられる。長文を書くことを要求されたのは1年で3回。支援者が保護者の母語を知らない限り日本語で書く必要がある。②については多くの場合「(○(まる)を記入してください)」といった内容で必要なものを選ぶ力があればアクションが可能である。また、身近な人の氏名や運動会などの行事の参加者の人数を記す程度で負担が少ない。③については園以外からの文書が中心で、文章を書く必要はないが、記されている語彙は②よりも複雑で難しいものが多い。その他、必要な場合のみ提出するものに、給食に対するアレルギー調査や保護者会が開催するイベントへの申し込みなど9点があった。

2. 参加する（主に行事）

①子どもだけ参加する	2	（例）遠足
②子どもと一緒に参加する／見に行く	13	（例）親子遠足・運動会
③保護者だけが参加する	5	（例）オリエンテーション・懇談
④その他	1	家庭訪問

2. 参加するでは、普段の園生活以外への参加であり、①の例「遠足」では送迎場所や時間がいつもと異なり、②も同様で子どもと保護者それぞれの集合時間、集合場所を確認する必要がある。中には地図を見て集合場所へ行ったり事前に集合場所を選択したりする必要がある場合もある。また、3. 準備すると合わせてアクションすることが多い。その他、給食の試食会など希望者のみ参加するものもあった。

普段の園生活と異なる行事は、外国人保護者にとって文化的背景の違いから予想が難しいものも多く、これらについては樋口（2014）で述べたように事前の情報提供が必要である。

3. 準備する

①持たせる	32	（例）パンツ・タオル（園で準備したものや自宅にあるものを持たせる）
②名前を書く	10	（例）リュック（指定された場所に名前を書く→持たせる）

③購入する	10	（例）トレーニングウェア↓申し込む（記入・提出／園に買いに行く） お弁当箱（スーパードなどで購入↓持たせる）
④作る	5	（例）袋、エプロン（材料購入↓作成）
⑤その他	3	指定されたことを行う （例）プールカード（体温を測る↓記入↓持たせる） ぎょう虫検査

①はすでに購入済み、もしくは家にあるものを持たせるのに対し、③と④は購入する行為が必要で、③では園で申し込む場合もあれば、スーパーなどに買いに行かなければならない場合もある。さらに④では、材料を購入し園からの文書をもとに裁縫することも必要である。ここでは日本語能力とは異なる能力が必要となる。自身の経験からより困難になる場合もあれば、反対に能力を発揮できる外国人保護者もいるかもしれない。⑤では購入の必要はないが、指定されたことを行ってから園へ持たせる必要がある。②③⑤はすべて準備をした上で持たせる必要がある。つまり「子どもに持たせる」という行為については60の指示があったことになる。さらに、2. 参加するの②③で保護者が参加する場合には保護者の持ち物の準備も必要になる。例えば、園に上がるためのスリッパや保護者証などがある。

ここで示したものはすべて「いつ／いつまでに」持たせるかの理解も必要である。例えば、プールカードを忘れたことにより子どもがプールに入れなかったり、持ち物を忘れたことで嫌な思いをしたりするなど日々の子どもの生活に直接関わるため重要なアクション

であると言えるだろう。

4. 他者への働きかけ

少数ではあるが、運動会や敬老の会の行事に参加してくれる人（両親など）に連絡をとることや、子どもが書く手紙のあて先に連絡をとるなど他者へ連絡をとり参加してもらうこともあった。

5. 注意する

1～4. まではすべて何かを行うアクションであったが5. 注意をするのは反対に「禁止されたことをしない」ことも含めアクションとした。注意することだけを知らせる文書と1～4. までのアクションをするのに合わせて伝えられる注意がある。ここでは注意だけを目的とした文書の例をあげる。

（例）

- ・お迎えに来た時はすみやかに帰る
- ・SNSに投稿しない／写真を撮らない
- ・支援者に届け物をしない

特に、SNSに投稿しないや写真を撮らないなどの禁止事項については守らなければ他の保護者との関係が悪くなる危険性もあると考えられる。

6. その他

1～5. 以外に、メールリングリストへの登録方法や写真の申し込

み方などを知らせる文書もある。また、アクションの必要性が低いものとして、「家庭で子どもと行う」というアクションがあった。例えば、「おうちで歯を磨くように指導してください」「ご家庭で一緒にお楽しみください」といった指示である。他にも「○○（し）ましよう」と子どもに向けた指示になっている場合もある。

1～6. まではさまざまなアクションがあることがわかったが、ここで気をつけなければならないことは、1～4. までのアクションについては、それぞれのようにそのアクションを起こすのか詳細を説明し、どうしてそうしなければならないのか理由が書かれていることだ。さらに、注意事項が多く書かれている場合もある。このそれぞれのアクションに対する注意事項はアクションの数だけあると言っても過言ではない。アクションだけに注目するのではなく注意事項にも注目する必要があるだろう。

6. アクションの文書に多く見られた文末表現

5-1. で述べたアクションを働きかける表現を文書から抽出したところ「（て）ください／（し）ておいてください」「お願い（致）します／ようお願（致）します」（以後「（て）ください」「お願（致）します」の2つが過半数を占めた。そこでこの2つについてどのようなバリエーションがあり、何について伝えられているのかをまとめてみた。

「(て)ください」のバリエーション

「(お) + 名詞 + ください」

安心／遠慮／確認／記入／協力／参加／参照

参集／持参／相談／配慮／利用／連絡／お知らせ

名詞 + (を) してください

お願い／完了／記入／削除／指導／相談／駐輪／

注意／提出／登園／登録／判断／調節(を)

動詞 + てください

入れて／入れ替えて／行って／書いて／気をつけて／避けて／止めて／
楽しんで／縫って／減らして／見守って／申し出て／持たせて／
持ってきて

「(て)ください」を用いた行動

準備・持参する

「持ってきてください」「持たせてください」「(て)持参ください」

記入する

「書いてください」「(て)記入ください」

「〇をしてください」

参加する

「お集まりください」「お出でください」

「お越しください」「(て)参加ください」

「(て)参集ください」

連絡する

「(て)連絡ください」「お知らせください」「申し出てください」

「(て)相談ください」「お尋ねください」「お問い合わせください」

「お願い(致)します」のバリエーション

よろしくお願い(致)します

ご協力のほど／ご来園のほど／ご鞭撻のほど／(て)ので

名詞(を) + お願い(致)します

確認／登録／提出／連絡／準備／ご協力／お迎え／購入

名詞で + お願い(致)します

(例) お箸のみが入る入れもので

食べやすいおにぎり弁当で ボールペンで

てくれる・てもらう

てくださるよう／ていただけるよう／ていただきたく／てもうよう

「お願い(致)します」を用いた行動

準備・持参する(例…準備・提出・購入)

記入する(例…書き直し・提出)

参加する(例…ご来園のほど)

連絡する(例…購入)

注意喚起(例…お箸のみが入る入れ物でボールペンで)

依頼(例…協力よろしくお願い(致)します)

この2つに共通して言えることは、同じアクションであるのに複数の表現が存在することである。例えば、「園に行く」という行動に対し、「お集まりください」「お出でください」「お越しください」「ご参加ください」「ご参集ください」「ご来園のほどよろしくお願い致します」と表現している。日本語ネイティブにとってはどの表現であっても困ることはないのだが、外国人保護者にとっては容易でないことは言うまでもない。これらすべてを「来てください」とすれば外国人保護者にとって理解しやすくなるだろう。加えて言うならば、「〜てください」は日本語学習をしたことがあるものにとっでは初級前半で学ぶ文型であるため馴染み深い。また「やさしいにほんご」のルール(8)「文末表現はなるべく統一する」にも指示は「〜てください」が用いられている。そのため、「ご記入お願いします」より「書いてください」は容易に理解できると考えられる。また、丁寧な表現として「〜くださいますよう／＼いただけますよう」「ご〇〇のほど」という表現もあるがこれもまた外国人保護者にとっては不要な表現であると言える。

ここまでアクションの分類を行って来たが、決して保護者のとるアクションの種類は多くない。つまり1つの行動に1つの表現を使用すれば、アクションを起こすための表現を理解することは可能になると考えられる。そこで、5-1. で示したアクションの内容の分類別にその書き換え案を提示する。

1. 提出する

①	「書いてください」↓「持ってきてください」
②	「選んでください」(○を書いてください)↓「持ってきてください」
③	「教えてください」↓「書いてください」↓「持ってきてください」

2. 参加する

①	「教えてください」「書いてください」↓「持ってきてください」
②	「確認してください」「選んでください」↓「来てください」
③	「確認してください」↓「来てください」
④	「確認してください」

3. 準備する

①	「持ってきてください」
②	「書いてください」↓「持ってきてください」
③	「買ってください」↓「持ってきてください」
④	「作ってください」↓「持ってきてください」
⑤	「してください」↓「持ってきてください」

4. 家庭で子どもと行う「〜してください」

5. 他者への働きかけ 「聞いてください↓書いてください↓持ってきてください」

6. 注意する 「ゝ(し) ないでください」

注意の中には「わからないときは聞いてください」も有効である
と考える。

以上にあげた「動詞＋てください」は全部で10種類である。アクションの数が少ないことが窺えると同時にこの限られた表現がいつもアクションを起こす文書に記されていれば外国人保護者の負担は軽いものになると考える。

6-3. その他の表現

以上のようにアクションをしめす表現を「ゝ(て) ください」に変えたがそれではニュアンスが異なる表現がいくつか存在する。次にその例と置き換え案を記す。

アクションを表す表現	置き換え案
〃が望ましいです 〃をお勧めします 〃が好ましいです	〃ほうがいいです
〃でもかまいません 〃でも結構です	〃でもいいです 〃でもいいです

これらは婉曲的な表現でアクションを起こす際、混乱を招く可能性がある。「〃ほうがいいです」に変更可能なものは「〃てください」にも変更が可能だと考えられるが、「〃でもいいです」は、わ

かりやすく「〃てください」と言い換えれば良いのだろうが、やはり園の立場上、言いきれない場合もあると考えられる。そのような場合には「〃でもいいです」を用いるか、もしくは、「AやBやCにしてください」という表現にするか、選択することが可能だというマークを決め、記すのも良いかもしれない。

上記以外に見られた表現に「ゝ(し) ましょう」も見られた。「やさしいにほんご」のルールでは「ゝしまししょう」は指示以外にも勧誘の意味もあるので「〃してください」としたほうが良いとされている。ここでもやはり「〃てください」と変更することが望ましいと言える。しかしながら、「ゝ(し) ましょう」は保護者ではなく子どもに語りかける表現で内容も子どもが気を付けることであった(樋口2014)ため「ゝ(し) ましょう」としたままこれは保護者ではなく子ども自身がするアクションであると区別するのもよいかもしれない。

7. アクションシートの作成

ここまでアクションの内容の分類とそのアクションを行うのに必要な文末表現を見てきた。先述した通り、ここからはそれらを踏まえ実際の文書の文章から必要なアクションをまとめ、より容易にアクションが行えるよう「アクションシート」を作成する。ただし、すべての行動についてのアクションシートは紙面の関係上不可能であるため、「参加する」「準備する」を例に取り上げる。また、それ

ぞれのアクションには文字よりも容易に理解ができるイラストを用いることを検討しているが、ここでは挿入が困難なためイラストを文字で表現する。(イラストを挿入したものは最後に資料として添付)

まず原文をやさしい日本語に置き換え、さらに保護者のとるアクションとそれ以外の情報に分ける作業を行った。

原文

これから運動会の練習が活発になりグラウンドでの長時間練習が始まります。連日の暑さが予想されますので、今年もこまめに水分補給が出来るように水筒を持ってグラウンドに出たいと思います。水筒にお茶を入れて子どもさんに持たせて下さい。

- ・お茶は満タン入れてください。
- ・水筒はタオル掛けに保管しますので、ひも付きタイプのものを用意してください。
- ・運動会当日も持参下さい。プログラム途中で水分補給をします。

アクション【準備】①持たせる

- ・水筒を持って行く(ひも付きタイプ)
- ・水筒にはたくさんのお茶を入れる
- ・運動会当日も持って行く

アクションシートA

アクション【持ってきてください】

★イラスト(【カバンマーク】)

【持ってきてください】水筒(お茶をたくさん入れてください。)

【いつ】毎日・運動会の日

注意!!

- ・ひもがある水筒を持ってきてください。↓【イラスト】
- ・お茶を入れすぎないでください。
- ・.....

(^)メッセージ(支援者が言いたいこと)

・これからたくさん運動会の練習をします。毎日暑いですから水筒がいります。

- ・タオル掛けにかけますから、ひも付きの水筒にしてください。
- ・運動会のときも飲みます。

まず、はじめにここでは「持たせる」というアクションであるため、「いつ/何を」持って行くかが最も重要な情報である。そのため、まずその2点について伝える。そのあと、その持ち物についての注意点を「注意」の欄を設け記す。ここでは「ひも付きの水筒」とあったが、このようなイラストがあれば簡単に説明できるものは積極的にイラストを用いるようにする。最後に、どうしてそうしな

ければならないかの目的・理由を伝える部分を「メッセージ」として記した。この部分についてはアクションに直接関係しないが、少しでも理解を深めたいという場合やどうしてそうしなければならいのか不満を持つ場合が考えられるためこの欄を設けた。

次に、先ほどと同じ要領で、アクション2【参加する】①「子どもだけ参加する」をアクションシートにすると次のようになった。

(原文は省略)

アクションシートB

遠足のお知らせ

★イラスト（【遠足マーク】）

【いつ】 ○月○日

【だれ】 子ども

【どこ】 奈良公園

アクション【持ってきてください】★イラスト（【カバンマーク】



【持ってきてください】水筒・お弁当

【服装】（服装マーク）（省略）

アクション【来てください】★イラスト

・行くとき ○時○分 ××駅
・帰るとき ○時○分 ××駅に來てください

注意!!

・○時○分の電車の乗りますから遅れないでください。

・（その他、省略）

.....

(^^)メッセージ

・電車でんしゃで奈良公園ならこうえんへ行きます。

・（その他、省略）

ここでは子どもだけが参加する「遠足」を例にした。子どもだけが参加する場合、持ち物、服装、集合／解散場所、集合／解散時間が保護者のアクションを起こすための最低限必要な情報であった。遠足の目的地や保育の目的などについてはメッセージ欄を利用するとよいだろう。

2つの例をあげたが、この作業を行って明らかになったことは、例の原文のように、いつそれを持って行くかが明記されていないことやアクションを行うためには細かい指示や注意点がいくつもあることであった。また、ここでは紹介しなかったがアクション1【提出する】については指示の「書いてください」は容易に伝えられるもののその書く内容を伝えることが他のアクションと異なり、非常に難しいことも明らかとなった。外国人保護者にとっては「読む↓

理解する↓選ぶ↓書く↓提出する」というアクションが必要である。アクションの中では最も外国人保護者にとって難しいものだと考えるだろう。これについては「やさしい日本語」の利用が多いに役に立つと考えられる。

8. まとめと今後の課題

本研究ではアクションの分析と「やさしい日本語」をもとにアクションシートの作成を試みたが、先述したように実際この作業を支援者が行うには緊急を要する状況や強い意識があれば難しいだろう。しかし、一人でもそれを必要としている外国人保護者がいるのならば活用していただきたい。この作業については、時間は必要であるが難しい作業ではないため支援者以外の者が行うことも可能だと考える。例えば、同じ園に通う日本人保護者が協力すれば幼稚園に關しての知識が豊富であるし、外国人保護者との交流も図れるだろう。もしくは「やさしい日本語」に堪能である日本語教師や地域日本語ボランティア、本学のように大学付属幼稚園ならば日本語教育を学ぶ学生などが協力し作成していくのも良いだろう。多くの場合、一度作成したシートは再利用が可能であるとも考える。

さらに、外国人保護者の負担を減らすためには母語での情報の提供も忘れてはならない。このアクションシートは、一つの園の文書を使用した¹⁾が、他の園でも使用できるようにと園独自の行事や活動ごとではなくアクションに注目した。よって、全国的に使用が可能で

あればこのシートの翻訳を試みるのもひとつの方法であると考ええる。一人でも多くの外国人保護者が、他人の力に任せきりになるのではなく、日本での子育てに自信を持ってもらいたい。日本での子育ての出発点とも言える幼稚園や保育園で頑張ることがその後の小学校・中学校への進学へも繋がると期待する。

謝辞

本研究にあたりまして、文書の提供にご協力いただきました幼稚園、ご意見をくださいました皆様に心より感謝申し上げます。

注

(1) NPO 東大阪日本語教室 東大阪^市にある地域日本語教室

(2) 樋口(2014)では、幼稚園で使用されることばの中で頻繁に使用されることばや園独自の^{ことば}に注目した。また、以前作成した『幼稚園のほんご』^{（※）}では、幼稚園で行われている代表的な行事（外国人保護者が事前に情報を知っておくことよいと思われる内容）をまとめ紹介した。

(3) 東大阪市は大阪府大阪市の東に隣接する中核市であり、人口は約50万人である。現在の外国籍の人口は約16820人で人口の約3%にあたる。全国で11番目に外国人人口が多い都市である。（2015年政府統計総合窓口）国籍は、韓国・朝鮮が最も多く11837人、続いて中国が3160人ベトナムが474人、フィリピン317人と続く。

ベトナム国籍は2年前に比べ100人以上増加。外国人世帯が8098世帯で、0歳～14歳までの人口は934人(2015年6月東大阪市統計書)である。市内には日本語学校がなく日本語を学ぶには識字教室や地域日本語教室を利用している人が多い。

- (4) 『幼稚園のほんご』「お知らせを読もう」「お便りを読もう」を作成
現在左記のブログにて公開中

「幼稚園のほんご」外国人ママのための日本語教材」
<<http://youchienonihongo.doorblog.jp/>>

参考文献

- (1) 庵功雄(2009)「地域日本語教育と日本語教育文法―「やさしい日本語」という観点から」『人文・自然研究』3号、126―141。
(2) 庵功雄・岩田一成・森篤嗣(2011)「「やさしい日本語」を用いた公文書の書き換え―多文化共生と日本語教育文法の接点を求めて」『人文・自然研究』5号、115―139。
(3) 大阪ボランティア協会「多文化子育て支援ガイドブック」企画委員会(2013)『日本語でつたえるコッ』(多文化子育て支援ガイドブック)。
(4) 政府統計の総合窓口(<http://www.e-stat.go.jp>)最終アクセス:2016年1月2日
(5) 野田尚史(2014)「「やさしい日本語」からユニバーサルな日本語コミュニケーションへ」『日本語教育』150号、4―18。
(6) 東大阪市平成27年版統計書(<http://www.city.higashiosaka.lg.jp/00>

0014536.html)最終アクセス:2016年1月2日)

- (7) 樋口尊子(2014)「幼稚園で使用されることば―東大阪地域における外国人保護者への日本語支援のために―」『樟蔭国文学』51号、47―63。

- (8) 弘前大学人文学部社会言語学研究室(2010)『「やさしい日本語」作成のためのガイドライン』

【資料】

アクションシートA

【持ってきてください】



【いつ】 月 日 ()

注意 !

・

・

.....



メッセージ

・

・

アクションシートB (遠足)

遠足のお知らせ

【いつ】 月 日 ()

【どこ】

【だれ】



遠足



【持ってきてください】



・

・

【きてください】



・ 行くとき 時 分

・ 帰るとき 時 分

駅

駅にきてください

【服装】



注意 !

・

・

.....



メッセージ

・

・

